

中立人道支援を実施

AMDA活動報告

救える命があれば

どういっても

□12□

菅波 茂



沖縄平和賞受賞を契機に、連載の機会をいただいで一年になる。今回は、AMDAの戦争に関連したプログラムを紹介させていたがたい。

AMDAの平和の定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」である。今日の生活とは食べられて健康であること。明日の希望とは子どもに教育を受けさせること。その阻

魂と医療のプログラム

ニスタンそしてスリランカで実施してきた。「医療と平和」とは、紛争の当事者の双方に中立人道支援の立場で国際医療協力を行い、紛争の緩和を図り和平プロセスに寄与する試みである。子どもの命は普遍であることへの共鳴が大前提となっている。

AMDA「魂と医療のプログラム」は、戦争と解プログラムである。第二次世界大戦で亡くなったすべての方々に対して、現地で日本と地元の聖職者による合同慰霊祭を開き、関係者に医療を提供する。慰霊祭は、二〇〇年から延べ二十二

戦争と解プログラムとして、摩文仁の丘にある平和の礎は、画期的な新機軸である。沖縄戦で亡くなった日米両軍のみならず、巻き込まれた沖縄の人たちも含めたすべての氏名が刻まれている。

古今東西に戦争記念碑が残っているが、大方は勝った方の戦勝記念碑か慰霊碑である。敗れた方の慰霊碑は朽ちているか目立たずにひっそりと世をしのんでいるのが現実である。すべての人々の氏名が刻まれている平和の礎は、すべての死者の

診療所に「沖縄平和賞」名



豪雨災害で医療支援を受けたクアテマラの母子
11月サン・ペドロ市（AMDA提供）

で、「魂と医療のプログラム」を戦争のみならず、災害被災者にも拡大することにした。十二月三日にはインドのチェンナイで慰霊祭を行い、二十六日にはインドネシアのバンダアチエとスリランカのカルムナイで行うことにしている。

プログラムの一環として、AMDAピースクリニック建設や医学生等向け奨学金設立も構想している。地震・津波の被災地はAMDA多国籍医師団が救援活動を実施した場所であり、可能な限りピースクリニックを建設したい。

人権を表現している。AMDAの人権の定義は「存在を認めること」である。具体的には、「あなたのことを忘れていません。心根の優しさが宿っています。あなたに関心を持っています。あなたを必要としています」という月二十六日に発生したスマトラ島沖地震・津波

医師団として参加した人たちと善意の募金をくださった方々の名を記したいと考えている。これにより、AMDAと日本からの支援者のメッセージを伝え続けることになる。

沖縄平和賞の副賞の一千万円はスマトラ島沖地震・津波、クアテマラ豪雨、ハリケーン「カトリナ」そしてパキスタン北部地震被災者救援活動の初期移動資金に活用したが、今後ピースクリニックにも使わせていただきたい。そこには沖縄平和賞の名も入れる予定である。ご理解いただければ幸いである。

AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長
この連載は毎月第四日曜日に掲載します。